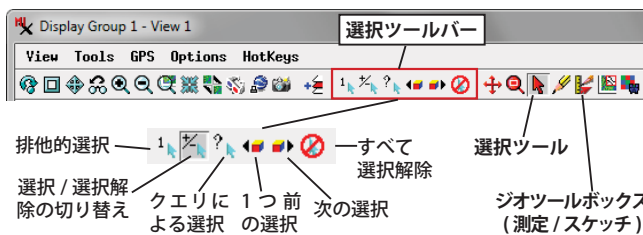
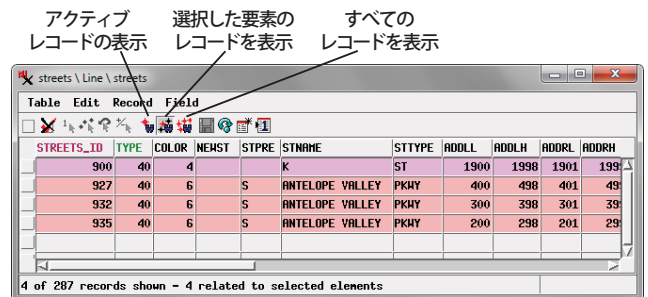
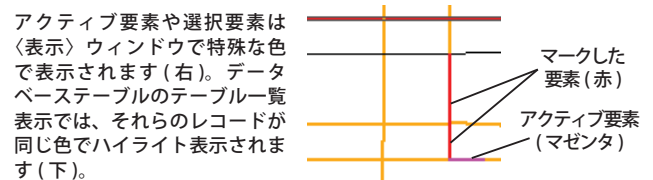


選択ツールと要素のマーク (選択)

図形オブジェクト (ベクタやCAD、シェープ、TIN) の要素は、〈表示〉ウィンドウで手動またはデータベースクエリを使って選択やマーク (選択) をすることができます。特定の要素や要素のセットの空間範囲を見たり、特定要素に関連付けられているすべてのデータベース属性を調べたり、あるいは他のアプリケーションの中でマークした要素に対して処理や編集操作を実行するために要素をマークします。

マークした要素 (選択要素) は、〈表示〉ウィンドウの中で特殊な色で表示されます。マークした要素のセットのうち1つの要素は常に**アクティブ要素**として指定され、マークした残りの**マークした要素** (デフォルトでは赤) とは異なる色 (デフォルトではマゼンタ) で表示されます。(〈表示〉ウィンドウの [オプション] メニューで [カラー] を選択すると 〈色の選択〉 ウィンドウが開き、選択要素とアクティブ要素の色を選択できます。) データベーステーブルのテーブル一覧表示が開いている場合、これらの要素に関連付けられたレコードをハイライト表示するのに同じ色が使われます (右図参照)。

の2つのモードのアイコンが設けられています。他のモード (「選択の追加」や「選択解除」) のアイコンは、〈非表示の機能のカスタマイズ〉ウィンドウ ([オプション]-[カスタマイズ]) で追加できます (テクニカルガイド『空間表示: 表示ウィンドウをカスタマイズする (Spatial Display: Customize the View Window)』参照)。



選択ツールを使って個々の要素をマークする

〈表示〉ウィンドウツールバーの「選択ツール」を使用すると、〈表示〉ウィンドウの要素の上で左クリックすることで、個々の要素を手動でマークすることができます。レイヤの要素をマークするには、その要素 (複数のタイプを持つベクタレイヤでは特定の要素タイプ) のマークが有効になっている必要があります。



この動作は〈表示マネージャ〉の要素項目の隣にある赤い矢印アイコンでコントロールされます。図形要素の選択はデフォルトで無効になっており、矢印アイコンに斜線が示されています (左図参照)。矢印アイコンを左クリックすると

選択が有効になります。「選択ツール」の初回使用時にアクティブ図形レイヤ (すべての要素タイプ) に対する選択が自動的に有効になります。〈表示マネージャ〉からデータベーステーブルを開くことでも、その図形レイヤで関連する要素の選択が自動的に有効になります。

「選択ツール」の動作は [選択] ツールバーの選択モードでの選択内容によって決まります (上図参照)。デフォルトでは「排他的選択」と「選択/選択解除の切り替え」

1 排他的選択: 選択ツールを使うとカーソル位置にある図形要素がマークされ、直前に選択していた同じタイプの要素のマークは解除されます。(排他的選択モードでは一度にマークできるのは各要素タイプにつき1つの要素だけです。) 現在の各要素タイプの設定に基づいて、カーソル位置で2種類以上の要素 (ラインやポリゴンなど) がマークされることがあります。

2 選択/選択解除の切り替え: 選択ツールを使うとカーソル位置の要素の選択状態が切り替わります。要素がマークされてなかった場合は要素がマークされ、マークされていた場合には要素のマークが解除されます。他の要素のマーク状態に影響しないため、手動で要素を何個でもマークすることができます。

3 選択の追加: カーソル位置にある図形要素がマークされていなかった場合、選択ツールを使うことでマークされますが、マークされている他の要素の選択状態は変わりません。既にマークされている要素を選択してもその要素のマーク状態は変わりません。

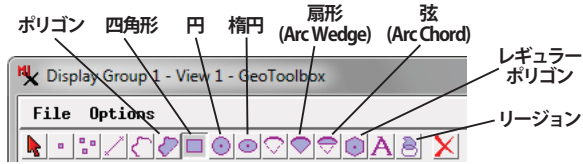
要素のマークを解除する

〈表示〉ウィンドウツールバーの [すべて選択解除] アイコンを押すと、〈表示〉ウィンドウのすべてのレイヤで現在マークされている全要素のマークが解除されます。ツールバーに [選択解除] アイコンを追加してオンにすれば、〈表示〉ウィンドウでマークされている要素を選択ツールで個別に解除することができます。

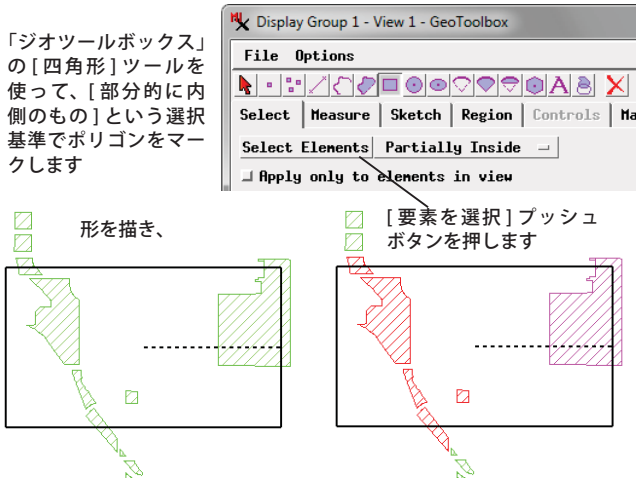
(次ページに続く)

ジオツールボックスを使って要素をマークする

「ジオツールボックス」(〈表示〉ウィンドウツールバーの[ジオツールボックス]アイコンから開けます)の領域グラフィックツールの一つを使用して、要素をマークすることもできます。(「ジオツールボックス」ツールバーでも選択ツールを使用できます。)



〈表示〉ウィンドウで好きなグラフィックを描き、「ジオツールボックス」の[選択]タブパネルの[要素を選択]PushButtonを押すと要素がマークされます。このPushButtonの隣にあるメニューには、要素と選択領域の間の空間的関係に基づいた選択操作に関する選択肢が提供されています。選択肢には「部分的に内側のもの」、「完全に内側」、「部分的に外側のもの」、「完全に外側」「重心が内側」、「重心が外側」があります。



デフォルトテーブル

〈表示〉ウィンドウで手動で要素をマークすると、要素にアタッチされた記録を含むテーブルが(もしあれば)自動的に開き、(既にそのテーブルが開かれていない場合)アクティブ要素や選択要素に対する記録を表示します。〈表示マネージャ〉のレイヤの要素項目でマウスの右ボタンメニューから[データベース設定]オプションを選択すると、このときに開かれる特定のテーブル(1つまたは複数)を指定できます(詳細についてはテクニカルガイド『デフォルトテーブルの設定とテーブルの非表示(Set Default Tables and Hide Tables)』参照)。

マークした時に特定のテーブルが表示されるように選択していない場合、〈表示マネージャ〉から開く〈オプション〉ウィンドウ([オプション]>[表示ウィンドウオプション])の[レイヤ]タブパネルにある「データベース設定がない場合、選択した時にデフォルトテーブルを自動で開く」トグルオプションのステータスによってデフォルトテーブルが自動表示されるかが決まります。

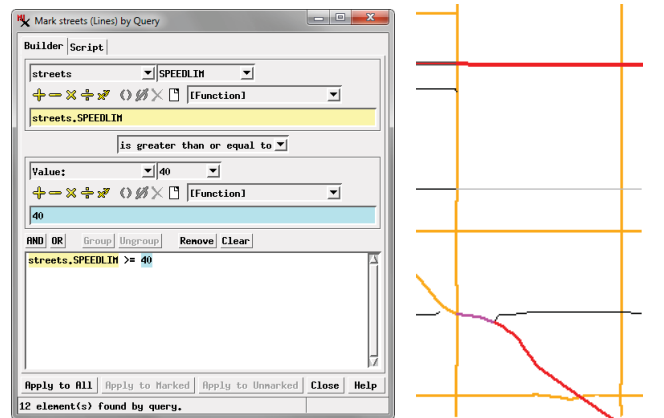
属性を使って要素をマークする

データベーステーブルのテーブル一覧表示を開いている場合、テーブルの特定の記録に関連付けられた〈表示〉ウィンドウの要素を自動的にマークすることもできます。テーブル一覧表示で、目的の記録の左にあるボックスアイコンを左クリックし(ボックスに赤いチェックマークが表示されます)、記録を選択します。次に〈テーブル一覧表示〉ウィンドウのツールバーから[選択]アイコンの一つを押すと空間表示されている要素がマークされます。[排他的選択]と[要素の選択]ボタンでは選択した記録に関連付けられたすべての要素がマークされます。[排他的選択]ボタンでは事前選択されていた要素の選択が解除されるのに対して、[要素の選択]ボタンでは新しい要素がマークされているセットに加えられるだけです。[要素の選択解除]ボタンでは関連する要素のマークが解除されますが、[トグル要素(エレメント)]ボタンは関連する要素がマークされていない場合にはマークし、既にマークされている場合にはマークを解除します。



データベースクエリを使って要素をマークする

データベース情報による要素のマークでさらに強力な方法なのが、データベースクエリを使用して特定の属性やその組み合わせをもった要素を特定することです。〈表示〉ウィンドウツールバーの[クエリによる選択]アイコンを押すと〈クエリによる選択〉ウィンドウが開きます。このウィンドウの[ビルダー]タブパネルには便利なインターフェイスが提供されており、データベースクエリの構成要素を段階を追って構築することができます。クエリを適用すると、クエリに一致するすべての要素が〈表示〉ウィンドウでマークされます。詳細については、テクニカルガイド『対話型クエリビルダ(Interactive Query Builder)』を参照してください。



「クエリビルダ」を使用して、速度制限が時速40マイル以上のStreetsがデータベースクエリによってマークされました

(次ページに続く)

マークした要素を一つずつ順送りする



〈エディタ〉で要素をマークすることは操作の中で不可欠なことです。多くの編集操作はアクティブ要素または全選択要素に適用することができます。しかし全ての選択要素が現在の表示範囲に含まれていない、または現在のズームレベルでは詳細が十分に表示されていない場合、全選択要素に編集操作を安全に適用できるか確信できないことがあります。〈表示〉ウィンドウツールバーの[次の選択]や[1つ前の選択]アイコンを使用すると、マー

クした要素のセットを進めたり戻したりして選択要素を一つずつ順にアクティブにすることができます。〈表示〉の位置は必要に応じて現在のアクティブ要素が表示されるよう自動的に変わります。〈表示〉ウィンドウの[オプション]メニューで「**選択要素を順送りする際ズームする**」トグルがオンになっている場合、〈表示〉は各アクティブ要素の範囲に自動的にズームもされます。これらのオプションを使用することでマークした各要素を順番に調べ、その特定のアクティブ要素に編集操作を適用するかどうかを一つずつ決定することができます。

